場所・面積

東京都多摩市、0.80ha

管理目的

- 生態系ネットワークの一部となる緑地や水辺を提供し、地域の生物多様性保全に貢献する
- 社内外における生物多様性の普及・啓発、地域に日常的な憩いの場として親しまれる

サイト概要

- 長谷工グループの技術関連機能である「長谷工技術研究所」「長谷工グループ技術研修センター」「長谷工コミュニティアウル24センター」および情報発信拠点としての「長谷工マンションミュージアム」を併設した施設
- 17,662㎡の敷地に4棟の施設を配置し、地上部と屋上緑化で約8,000㎡の緑地を確保
- 敷地南側の法面緑地には鳥が好む花や実のなる在来種の樹木を主に植栽、中央部には水辺ビオトープを設け、多摩川水系一級河川大栗川にて採捕したアブラハヤ等の水生生物を移植した施設

土地利用の変遷

- 2005年 独立行政法人都市再生機構が新住宅市街地開発法により事業用地として造成工事を完了
- 2001年から2009年までペットのテーマパークが立地
- 2016年4月 株式会社長谷工コーポレーションが取得
- 2018年3月 長谷工テクニカルセンター竣工　現在に至る

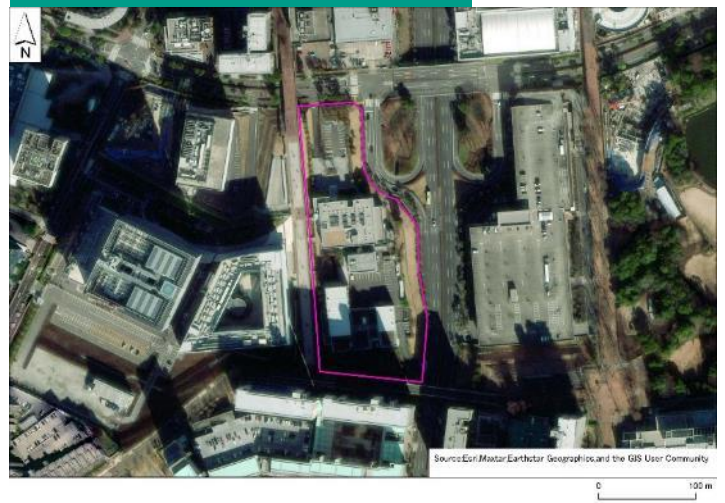
サイト周辺の環境

- 多摩市は北から南へ多摩川、沖積低地、台地、多摩丘陵で形成された地形にあり、残された里山の緑と、新たに創出されたニュータウンの緑から構成されている
- 本サイトは多摩市南の台地部、多摩都市モノレール多摩センター駅から300m圏内に位置し、商業施設や事業用地、住宅地が混在するエリアにある。半径500m圏内には公園があり、かつての里山の雑木林が残されている

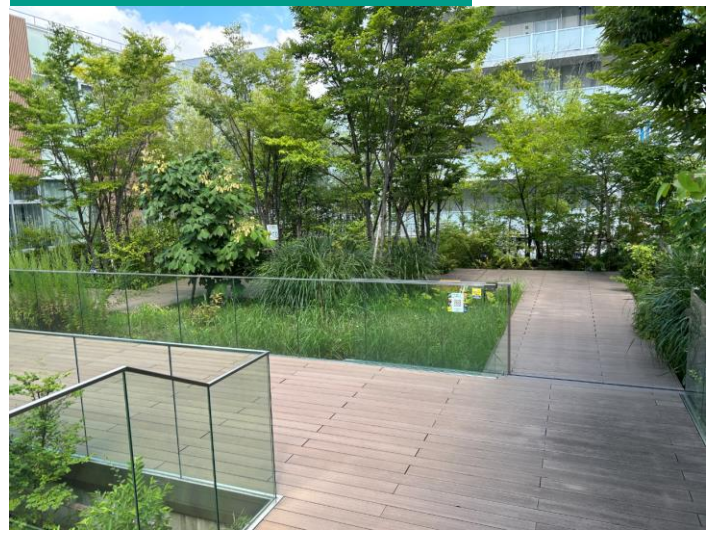
アピールポイント

- 2018年3月の竣工から2020年3月までのモニタリング調査では、植物の生育、水生生物の定着、鳥や昆虫の飛来を確認された。また、新たに創出された緑地や水辺が、地域の生態系の構成要素として醸成・確認された
- 長谷工グループの社員を対象とする生物多様性保全研修、多摩市民を対象とする自然観察イベントなど、社内外の生物多様性の普及・啓発の実践の場としての利用など、社会貢献の度合いも高まっている

区域全体図・写真①



区域全体図・写真②



生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【健全性】
哺乳類 0種、鳥類 11種、爬虫類 1種、昆虫類 89種、植物 74種
の計175種の在来種を確認

【地域に根差した植生の創出】
既存樹林を保全しつつ、地域の植生、雑木林の構成要素から選定した樹木を新植し、立体構造を持つ樹林を創出（在来種率61.8%）

【水循環への配慮】
透水性・浸透性に配慮した舗装やトレンチによる地下水涵養
輻射空調システムや防災対応トイレなどに地下水を利用

【物質循環への配慮】
落ち葉を堆肥化

【生態系サービス】（文化的サービス）
社内外の生物多様性の普及・啓発の場を提供



写真番号：1　　写真の撮影年月：2020年9月23日
写真の説明：落ち葉を堆肥化

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定地域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場としての価値

【場の概況】
周辺環境との調和（生態系ネットワークの創出）の実現に向けた環境を創出し、環境教育イベントでは、本サイトと周辺緑地の繋がりを解説

①周辺の自然環境（植物）との連続性に配慮し、里地里山環境と水辺環境を創出し、良好に生育

②指標種（鳥や昆虫）の誘致が見込まれる種を選定し、樹林環境、草地環境、水辺環境を創出

③指標種以外にも、生物が好む一般的な地域で見られる種を選定



写真番号：２　　写真の撮影年月：2022年6月11日
写真の説明：周辺緑地の繋がりを解説

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

【管理計画の内容】

・緑地管理（樹木剪定、草刈、除草、枯損木植替え、薬剤散布、施肥、排水不良改修）
・コンポスト（ヤード整備、落ち葉集積、堆肥づくり）
・水辺ビオトープ水質管理（水生生物観察）
・樹林地内の落ち葉の自然分解を促す
・落ち葉を堆肥化し、緑地に利用
・外来種の侵入時、適宜除去
・刈草を樹木の株元マルチとし、乾燥防止と養分供給に活用
・自然な植物の姿、生育、誘致された鳥や昆虫類、水辺ビオトープの水生生物の生息を念頭に置く
・修景的な剪定や草刈りは行わず、薬剤使用も低減、在来植物を被覆する外来種は除去、水辺環境を悪化させる藻などを除去
・都度、状況に応じた管理を実施

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】

環境モニタリング（鳥類、昆虫類、植物）

【モニタリング場所】

ビオトープ周辺、南側斜面林　等

【モニタリング手法】

日常的な巡視。専門家による調査

【実施時期及び頻度】

過去実施時期
（2018年10月、2019年1月・5月・7月・10月）